

骨シンチグラフィ検査説明書・予約票

様

予約日は

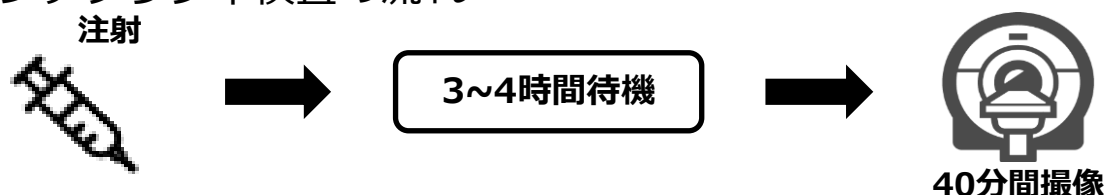
月

日

時

となります

● 骨シンチグラフィ検査の流れ



- ① 静脈注射で体内に放射性医薬品を投与します。
- ② 全身の骨に薬が集積するまで、**3~4時間待機します。**
自宅が近い場合は一時帰宅することも可能です。
他の検査による制限等がない場合は、食事をとっても構いません。
- ③ **約40分間撮像します。**

検査の注意事項

- 予約のキャンセルについて
当日のみ使用可能なお薬を受注生産し、1検査に1本用意しております。
キャンセルされる場合はできるだけ早くご連絡下さい。
当日キャンセルの場合は費用をご負担いただく場合がございます。
検査時刻を過ぎた場合はこちらから連絡させていただく場合がございます。
- 検査前後の食事、飲水に制限はありません。
- 服薬に関しての制限はありません。
- 妊娠中、授乳中、妊娠の可能性のある場合は主治医にご確認ください。
- 検査終了当日は乳幼児、妊婦との接触はお控えください。
- 入院された場合はこの用紙を病棟看護師まで提出ください。

**検査に使う薬は当日遠方より配達されます。このため交通事情等による検査の遅延
または延期をさせていただく場合がございます。ご了承ください。**

ご予約の変更、ご不明な点等ございましたら下記までご連絡ください
徳山中央病院
平日9:00~16:00 TEL. 0834-28-4411 内線 6010 (RI検査室)

核医学検査の医療被ばくに関する説明書

□核医学検査について

微量に放射線を出す薬（放射性薬剤）を体内に投与し、体内から発生する放射線をもとに薬剤の集積する部位や集積の程度を画像化し、病気の診断を行う検査です。放射性薬剤は、注射や飲んだりして体内へ投与します。検査の目的に応じて、追加の検査や繰り返し検査をする場合、CT検査を追加する場合があります。

□検査の正当化(必要性)について

核医学検査では放射線を用いるため、少なからず被ばくを受けます。従って、検査の必要性が被ばくのリスクを上回ると考えられる場合のみ検査を行います。ご理解した上で検査を受けて頂けるようにお願いします。なお、ご不明な点は、スタッフにお問い合わせください。

□線量の最適化について

当院では、法令や関連学会のガイドラインをもとに最適な条件で検査を行い、放射線による被ばくを必要最小限にすることを実践しています。特に放射性薬剤の投与量に関して厳密に管理された投与を行うことで最適化に対する取り組みを行っています。

□被ばく線量について

核医学検査による被ばく線量を示します。実際には、体重、検査部位や検査方法によって異なりこれより多くなることもあります。一般的には、100mSv以下の放射線被ばくによる影響はほとんどないと考えられています。また、発がんのリスクにおいても、食事やストレスなど放射線以外の因子によるものと区別できないと言われています。

□身の回りの放射線について

自然放射線やX線検査による被ばく線量を示します。私たちは、食べ物や大地などから1年間で平均2.4mSvの自然放射線による被ばくを受けていると言われています。日本では年間2.1mSvですが、多い地域では年間約30mSvという地域もあります。また、航空機に乗ると宇宙から飛来する放射線の影響のため、東京～ニューヨークの往復で0.11～0.16mSv被ばくすると言われています。

当院の核医学検査による被ばく線量

検査部位	被ばく線量※ (mSv)
脳	5
心筋	15
肺	4.0
骨	4.0
甲状腺	2.0
腎	1.5
核医学検査に伴う CT 撮影	0.8～2.2

※ 国際放射線防護委員勧告 (Pub.128) のデータより算出



環境省 HP より引用